

総括表その1

環境要素の区分	影響要因の区分	調査結果	環境保全目標	予測結果	環境保全措置	評価結果
大気	工事用車両の走行	大気汚染物質濃度（四季平均値） 二酸化窒素（NO ₂ ）: 0.012ppm 二酸化硫黄（SO ₂ ）: 0.001ppm 一酸化炭素（CO）: 0.3ppm 浮遊粒子状物質（SPM） : 0.013mg/m ³ ダイオキシン類（DXN） : 0.11pg-TEQ/m ³	NO ₂ （98%値） 0.06ppm以下 SPM（2%除外値） 0.10mg/m³以下	道路敷地境界 NO ₂ （98%値） 国道337号： 0.029ppm 新川通 ： 0.035ppm 曙通 ： 0.026ppm SPM（2%除外値） 国道337号： 0.028mg/m³ 新川通 ： 0.032mg/m³ 曙通 ： 0.026mg/m³ 山口団地高層住宅 NO ₂ （98%値） ： 0.024ppm SPM（2%除外値） ： 0.024mg/m³	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の規模に合わせた工事機械の適正配置 ・余裕のある工事工程の策定 ・工事用車両走行ルート分散化 ・適正な車両運行計画の策定 ・工事現場の散水 ・工事用車両の洗車、荷台への防塵シートの敷設 	全ての道路敷地境界及び山口団地高層住宅で環境保全目標は達成できると考えられる。
	造成工事		降下ばいじん量 10t/km²/月以下	山口団地高層住宅 春季： 0.047t/km²/月 夏季： 0.059t/km²/月 秋季： 0.133t/km²/月		全ての工事時期で、環境保全目標は達成できると考えられる。
	施設の稼働		長期的予測 NO ₂ （98%値） 0.06ppm以下 SO ₂ （2%除外値） 0.04ppm以下 SPM（2%除外値） 0.10mg/m³以下 DXN（年平均値） 0.6pg-TEQ/m³以下 短期的予測 NO ₂ （1時間値） 0.1ppm以下 SO ₂ （1時間値） 0.1ppm以下 SPM（1時間値） 0.20mg/m³以下	長期的予測 NO ₂ （98%値） 最大着地： 0.041ppm 山口団地： 0.041ppm SO ₂ （2%除外値） 最大着地： 0.014ppm 山口団地： 0.014ppm SPM（2%除外値） 最大着地： 0.024mg/m³ 山口団地： 0.024mg/m³ DXN（年平均値） 最大着地 ： 0.113pg-TEQ/m³ 山口団地 ： 0.114pg-TEQ/m³ 短期的予測 最大値（逆転層発生時） NO ₂ （1時間値） 最大着地： 0.074ppm 山口団地： 0.077ppm SO ₂ （1時間値） 最大着地： 0.047ppm 山口団地： 0.051ppm SPM（1時間値） 最大着地： 0.028mg/m³ 山口団地： 0.030mg/m³	<ul style="list-style-type: none"> ・バグフィルタ等高性能集じん器の設置 ・硫黄含有量の少ない燃料を極力使用 ・再燃焼室の設置による不完全燃焼ガスの加熱分解 ・燃焼温度の適正管理の徹底 ・集じん器の点検整備等による性能維持 	最大着地濃度地点及び山口団地高層住宅において長期的予測結果、短期的予測結果とも環境基準を満足することから、環境保全目標は達成できると考えられる。
	第2斎場関係車両の走行		NO ₂ （98%値） 0.06ppm以下 SPM（2%除外値） 0.10mg/m³以下	道路敷地境界 NO ₂ （98%値） 国道337号： 0.029ppm 新川通 ： 0.035ppm 曙通 ： 0.025ppm SPM（2%除外値） 国道337号： 0.028mg/m³ 新川通 ： 0.032mg/m³ 曙通 ： 0.025mg/m³ 山口団地高層住宅 NO ₂ （98%値） ： 0.024ppm SPM（2%除外値） ： 0.024mg/m³		全ての道路敷地境界及び山口団地高層住宅で環境保全目標は達成できると考えられる。

総括表その2

環境要素の区分	影響要因の区分	調査結果	環境保全目標	予測結果	環境保全措置	評価結果	
騒音	建設機械の稼働	自動車交通騒音レベル(昼間) 新川通 : 73dB(平日) 国道 337 号 : 67dB(平日), 62dB(休日) 曙通 : 67dB(平日), 64dB(休日) 環境騒音レベル(昼間) 事業予定地 : 45dB(平日), 44dB(休日) 事業場騒音レベル(昼間) 里塚斎場 : 50dB(平日)	敷地境界 85dB 以下	79dB (最大値)	・低騒音型の建設機械及び工法の採用 ・敷地境界付近 1 箇所に集中しないような建設機械の適正配置 ・余裕のある工事工程の策定 ・工事用車両走行ルート分散化 ・適正な車両運行計画の策定	全ての敷地境界で環境保全目標は達成できると考えられる。 騒音レベルの増加はほとんどないと予測され、環境保全目標は達成できると考えられる。	
	工事用車両の走行		工事用車両の走行により騒音レベルに著しい影響を及ぼさないこと。	騒音レベルの増加 最大(曙通) : +0.8dB 山口団地高層住宅 : +0.2dB			
	施設の稼働		敷地境界 55dB 以下	49dB (最大値)			・遮音性の高い建築資材、建物構造の採用 ・住居側に音源を集中させない等必要に応じた防音対策の実施
	第2斎場関係車両の走行		第2斎場関係車両の走行により騒音レベルに著しい影響を及ぼさないこと。	騒音レベルの増加 最大(曙通) : +1.1dB 山口団地高層住宅 : +0.2dB			
振動	建設機械の稼働	道路交通振動レベル(昼間) 新川通 : 43dB(平日) 国道 337 号 : 42dB(平日), 37dB(休日) 曙通 : 44dB(平日), 34dB(休日) 環境振動レベル(昼間) 事業予定地 : 33dB(平日), 30dB(休日) 事業場振動レベル(昼間) 里塚斎場 : 34dB(平日)	敷地境界 75dB 以下	65dB (最大値)	・低振動型の建設機械及び工法の採用 ・敷地境界付近 1 箇所に集中しないような建設機械の適正配置 ・余裕のある工事工程の策定 ・工事用車両走行ルート分散化 ・適正な車両運行計画の策定 ・防振ゴムの設置等必要に応じた防振対策の実施	全ての敷地境界で環境保全目標は達成できると考えられる。 全ての路線の道路敷地境界で環境保全目標は達成できると考えられる。	
	工事用車両の走行		道路敷地境界 65dB 以下	52dB (最大値国道 337 号)			
	施設の稼働		敷地境界 60dB 以下	42dB (最大値)			
	第2斎場関係車両の走行		道路敷地境界 65dB 以下	50dB (最大値曙通)			
悪臭	排出ガスの発生	臭気指数 事業予定地 : 10 未満 予定地周辺地域 : 10 未満 里塚斎場敷地境界 : 10 未満 里塚斎場排出口 : 25	周辺地域 臭気指数 10 以下	最大着地濃度 : 10 未満 山口団地最上階 : 10 未満	・再燃焼室の設置による不完全燃焼ガスの加熱分解 ・燃焼温度の適正管理の徹底	最大着地濃度地点及び山口団地高層住宅最上階において臭気指数が 10 未満と予測され、環境保全目標は達成できると考えられる。	
水の濁り	造成工事及び施設の設置等	濁川計画濁水流量 : 0.15m ³ /s 通常時 S S 濃度 : 17mg/λ	工事排水の S S 濃度 70mg/λ以下	70mg/λ (深さ 1m、貯水容量 490m ³ の沈砂池を設置)	・仮設沈砂池による土砂の沈降除去 ・余裕のある容量規模の仮設沈砂池の設置 ・工事区域の分割 ・緑地帯の早期緑化	工事排水の S S 濃度は 70mg/λと予測され、環境保全目標は達成できると考えられる。	
地盤	造成工事及び施設の設置	・事業予定地周辺地域は地盤沈下のほとんどない地域である。 ・事業予定地周辺地域の表層地質は砂質。 ・滞水層は、20m以浅の浅層、深度 100m程度までに 3~4 層と深層に 1 層ある。 ・浅層地下水位は融雪期に上昇し、9~3月に低下する。 ・事業予定地周辺地域には、浅層地下水を利用した畑散水用井戸が点在する。	工事中及び供用時において、周辺地域へ影響を及ぼすような地盤沈下を生じさせないこと及び周辺地域の地下水利用に有害な影響を及ぼさないこと。	掘削工事にあたっては、止水性の高い地中連続壁(矢板)工法等を採用することにより地盤沈下及び地下水利用障害の影響は少ない。	・掘削工事は止水性の優れた工法を採用する。 ・極力上水を利用し、地下水取水量の低減を図る。 ・浅層地下水の利用を避ける。 ・圧密沈下を避けるため、杭基礎工法を採用する。	工事中及び供用時の地盤沈下及び地下水障害の影響は少ないと予測されることから、環境保全目標は達成できると考えられる。	
	地形の改変後の土地及び工作物の存在			極力上水を利用し、地下水取水量の低減を図る。 ・浅層地下水の利用を避ける。 ・圧密沈下を避けるため、杭基礎工法を採用する。			

計画策定時に検討した配慮事項

総括表その3

環境要素の区分	影響要因の区分	調査結果	環境保全目標	予測結果	環境保全措置	評価結果
植物	地形変更後の土地及び工作物の存在	確認種数：44科128種の植物 注目種：確認されず	重要な植物種とその生育地への影響を回避または低減すること。	現況調査の結果、注目すべき重要な植物種は確認されなかった。	・事業予定地内の早期緑化 ・事業予定地及び進入道路は極力緑化面積を多くする ・緑化に用いる樹種は極力在来種とする ・事業予定地内の表層土の有効利用	重要な植物種は確認されなかったため、影響はない。
動物	地形変更後の土地及び工作物の存在	哺乳類 確認種数：3目4科5種 注目種：確認されず	重要な動物種とその生息地への影響を回避または低減すること。	オオジシギ 消失する草原はわずかであり、周辺に同様の生息環境が広がり、影響は少ない。 オジロワシ、オオタカ及びハイタカ 事業予定地は営巣地または採餌場としての利用は確認されておらず、主要な生息環境となっていないことから、影響は少ない。		重要な動物種に及ぼす影響は少ないことから、環境保全目標は達成できると考えられる。
		鳥類 確認種数：10目23科51種 注目種：オオジシギ、オジロワシ、オオタカ及びハイタカ				
		両生類・爬虫類 確認種数：1目1科1種（アマガエル） 注目種：確認されず				
		昆虫類 確認種数：9目107科302種 注目種：確認されず				
生態系	地形変更後の土地及び工作物の存在	キタキツネ及びカラス類を高次消費者とする生態系を構成。	調査地を特徴づける生態系への影響を回避または低減すること。	生態系を構成する代表種への影響は少ない。		事業予定地及びその周辺の生態系への影響は少ないものと予測され、環境保全目標は達成できると考えられる。
景観	地形変更後の土地及び工作物の存在	国道337号沿道、山口団地高層住宅最上階及び山口緑地から現況景観写真撮影。	事業予定地及びその周辺の景観への影響を努めて最小化する。	国道337沿い、山口団地高層住宅からの景観の変化は少ない。 山口緑地からは視野に占める施設の割合は小さく、近隣の建物と連続した構造物景観を構成し、景観及び眺望への影響は少ない	・周辺景観と調和する外壁の採用を図る ・第2斎場の色調は、周辺の景観と違和感のないよう配慮する ・敷地周縁部の植栽	周辺の景観への影響は小さく、環境保全目標は達成できると考えられる。
廃棄物等	造成工事及び施設の設置	掘削土の発生 伐採木の発生	廃棄物等による影響の回避又は低減対策の配慮がなされていること。	掘削土の発生量 4700m³	・掘削土の場内処理 ・伐採木の適正処理 ・一般廃棄物の分別収集 ・資源ごみのリサイクル	環境保全措置を行なうことにより、廃棄物等の影響は低減できると予測され、環境保全目標は達成できると考えられる。
	供用時の廃棄物の発生	一般廃棄物の発生				
温室効果ガス	排出ガスの発生 機械等の稼働	CO₂排出係数 灯油：2.51kg-CO ₂ /L 電気：0.357kg-CO ₂ /kWh 灯油使用量 803KL/年 電気使用量 363万kWh/年	温室効果ガスによる影響の低減のための配慮がなされていること。	CO ₂ 排出量 3313トン/年	・廃熱の有効利用 ・インバータ制御による電力消費の削減 ・自然採光の確保による電力消費の削減 ・高効率・省エネ型照明器具による電力消費の削減 ・高断熱建築資材によるエネルギー負荷の低減	環境保全措置を行なうことにより、温室効果ガスの影響は低減できると予測され、環境保全目標は達成できると考えられる。
火葬炉排気筒の周辺温度	排出ガスの発生	冬季及び夏季とも、里塚斎場火葬炉排出口風下水平方向で約5~7m、鉛直方向で約4mの距離で周辺温度と差が無くなった。	火葬炉排ガスの温度が周辺地域の環境に著しい影響を及ぼさないこと。	第2斎場火葬炉規模は里塚斎場と同程度であることから、温度の変化範囲は現地調査結果と同等と予測される。		温度の変化範囲は現地調査結果と同等と予測されることから、環境保全目標は達成できると考えられる。
交通解析	第2斎場関係車両の走行	第2斎場周辺交差点飽和度 0.26~0.51 第2斎場周辺道路混雑度 0.19~0.37	第2斎場の供用に伴い周辺道路の交差点及び単路部において交通流に支障がないこと。	第2斎場周辺交差点飽和度 0.35~0.6 第2斎場進入路交差点飽和度 0.56 第2斎場周辺道路混雑度 0.26~0.41	新設交差点は信号制御方式とする	第2斎場周辺道路の交差点飽和度が0.9以下、単路部混雑度が1.0未満と予測され、新設交差点飽和度についても信号制御を行うことにより0.9以下と予測されることから環境保全目標は達成できると考えられる。

計画策定時に検討した配慮事項